

## 林 重雄<sup>1</sup>：北陸へのアカウミガメの大量漂着

Shigeo HAYASHI<sup>1</sup>：Mass stranding of the loggerhead turtle, *Caretta caretta*, on the beach of Hokuriku Area, Japan

日本近海に生息するウミガメ類には、アカウミガメ、アオウミガメ、オサガメ、タイマイ、ヒメウミガメの5種が知られており(石井 1999)、福井県でもこれまでに5種の漂着が確認されている(百崎孝男ほか 2011)。このうちアカウミガメ *Caretta caretta* は、爬虫綱カメ目ウミガメ科アカウミガメ属に分類され、本種のみでアカウミガメ属を形成する。本種は、太平洋・インド洋・大西洋・地中海の熱帯および亜熱帯海域に広く分布し、日本には東北地方の近海にまでやって来る。日本近海は本種の北太平洋における主要な産卵場で、産卵記録は福島県以南の太平洋岸、および石川県能登半島以西の日本海岸にある(中村・上野 1963; 富田 2007)。今回、本州中部北陸地域の福井県から石川県南部で幼体の大量漂着を確認したのでここに報告する。

### 漂着記録

筆者は2012年11月3日、福井県坂井市浜地で漂着物の調査中に直甲長73.0mmのアカウミガメ幼体を採集した。これを最初に2013年2月末日までの間に、福井県から石川県白山市にかけての広範囲で、合計68個体のアカウミガメ幼体の保護や漂着が確認された。これらの大半は、汀線に連続する漂着物の帯に認められた。アカウミガメの直甲長は、最小値で65.4mm、最大値では118.0mm、平均は87.8mmであった。また体重は計測できた中での最小値で66g、最大値では340g、平均は141.5gであった。最初の漂着が11月に始まったので、その後の漂着期間を分かりやすく示すために一ヶ月をおよそ10日ごとの上旬、中旬、下旬の三つの旬間に分けて漂着数を確認した。この旬間の比較に基づくと、1月上旬に19個体を示すピークがあり、1月中旬が11個体、1月下旬と12月下旬が9個体となった。また未確認の旬間は11月中旬と2月中旬であった。地域別では、福井県南部(若狭)が22個体、福井県北部(越前)が30個体、石川県南部(加賀)が16個体となった。保護されたアカウミガメ幼体は越前松島水族館に収容され、漂着個体のほとんどは福井市立自然史博物館と越前松島水族館に収容された。

### 考察

アカウミガメの飼育下における成長は非常に早く、直甲長は孵化後3ヶ月でおよそ2倍の90mm以上になる記録があり(奄美海洋展示館ホームページ)、他にもアカウミガメの成長速度は他の生物同様に孵化直後が最も早く、5.09cm/年(直甲長)~11.8cm/年(曲甲長)との報告がある(亀崎 2012)。日本国内でのアカウミガメの産卵は5月頃から始まり孵化が7月ごろから始まるので(日本ウミガメ協議会ホームページ)、直甲長が100mm前後の個体を孵化後1年未満の幼体としてカウントした。また漂着個体の計測値の変化を見ても、直甲長(SCL/mm)は増加傾向を示しており、冬季においても着実に成長していることがうかがえる。

筆者は2000年以降定期的に福井県下の海岸で漂着物調査を続けてきたが、2000年から2009年までアカウミガメ幼体の漂着は確認されなかった。また越前松島水族館の確認記録でも、2000年から2009年までのアカウミガ

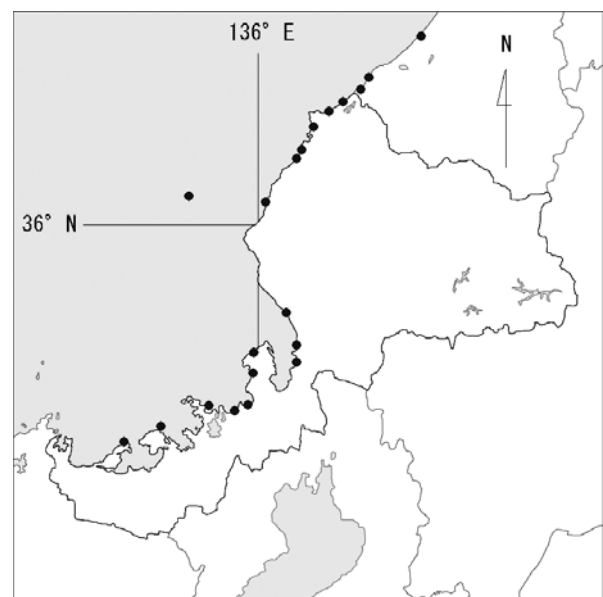


図1 福井県と石川県でウミガメが漂着・保護された位置。

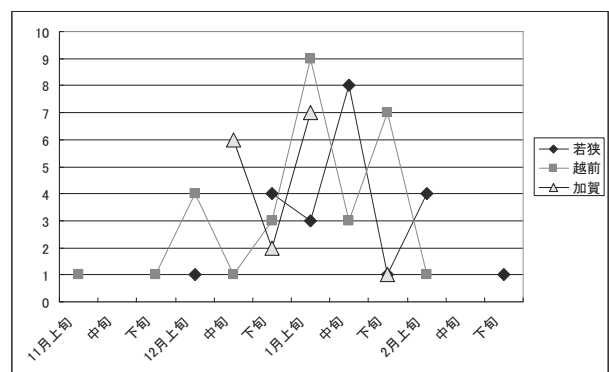


図2 旬間における地域ごとの漂着個体数の変化

メ幼体の記録はない(百崎孝男ほか 2011)。2010年12月から2011年1月にかけて、福井県下では直甲長が100mm未満のアカウミガメ幼体4個体の漂着が確認され(林2011)、2012年2月にはアカウミガメ幼体2個体の漂着が記録された。2010年より漂着が目立ったアカウミガメ幼体だが、2012年11月から2013年2月にかけては、それまでの10倍以上の保護や漂着個体数となった。

アカウミガメの幼体は孵化後、外洋に泳ぎ出た後に餌の多い高緯度海域へと回遊する(亀崎 2012)。回遊中は漂流中の海藻をはじめとした漂流物に寄り添い、幼体が餌にできるのは浮遊性の生物であることが知られており、幼体のうちは漂流物に依存した生活をおくるとされている(亀崎 2012)。

多くの漂着物に混在して漂着した状況は、こうした幼体の生活史と矛盾しない。南方で孵化し日本海へ回遊してきたアカウミガメ幼体の漂着は冬季の海水温低下によって衰弱し、漂着したものであろう。漂着数の多かった1月上旬間の福井県沿岸における表面海水温は13°C、海岸が最も近い観測地点・越廼の1月上旬間平均気温は4.4°Cであった(気象庁ホームページ)。漂着したアカウミガメ幼体の中には衰弱して保護され、水族館で保温によって元気を取り戻した個体もある(越前松島水族館ホームページ)。漂着後に発見されるまでの経過時間が短ければ、低温下の衰弱から死に至らず保護できた可能性があり、全ての死体が死後漂着ではない。

2012年11月から2013年3月において、福井・石川沿岸部での海流の流向、表面海水温、荒天の日数は例年と同様であるので(第八管区海上保安本部 海洋情報部ホームページ・気象庁ホームページ)、海水温や気象状況が大量漂着の要因になったとは考えにくい。日本ウミガメ協議会の集計によれば2012年の日本におけるアカウミガメ上陸件数は26000以上あり、産卵件数も14000以上という膨大なものであったため、それに伴う急激な孵化数の増加がアカウミガメ幼体の大量漂着に結びついた可能性が高い。

今後も調査を継続し、アカウミガメ幼体の漂着を記録することで、繁殖例の増加、日本海側での回遊ルートの究明などの新たな知見が得られるであろう。

**謝辞：**本稿をまとめるにあたり、敦賀市の兼田幸生氏、白山市の角本優美氏、福井市自然史博物館の梨木之正氏、福井市自然史博物館ボランティアの八田真毅氏、小寺仁美氏、高島直子氏には、ウミガメ類の漂着情報を頂いた。北海道教育大学札幌校の鈴木明彦教授には、粗稿を見ていただき、貴重な助言を頂いた。ここに記してお礼申し上げる。

### 引用文献

- 奄美海洋展示館ホームページ (<http://www.synapse.ne.jp/kaiyo/>)
- 第八管区海上保安本部 海洋情報部ホームページ ([http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN8/sokuho/sokuho\\_index.html](http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN8/sokuho/sokuho_index.html))
- 林 重雄 2011. 福井県美浜町へのアカウミガメの漂着. 漂着物学会誌 9: 27-28.
- 石井 忠 1999. 新編漂着物事典, 380pp. 海鳥社, 福岡.
- 亀崎直樹 2012. ウミガメの自然誌, 301pp. 東京大学出版会, 東京.
- 気象庁ホームページ (<http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html>)
- 越前松島水族館ホームページ. (<http://www.echizen-aquarium.com/>)
- 百崎孝男・水野由紀子・稲木明浩・鈴木隆史 2011. 福井県におけるウミガメ類の記録. 福井市自然史博物館研究報告 58: 41-46.
- 中村健児・上野俊一 1963. 原色日本両生・爬虫類図鑑, 214pp. 保育社, 大阪.
- 日本ウミガメ協議会ホームページ (<http://www.umigame.org/top.html>)
- 富田京一 2007. 日本のカメ・トカゲ・ヘビ, 180pp. 山と溪谷社, 東京.

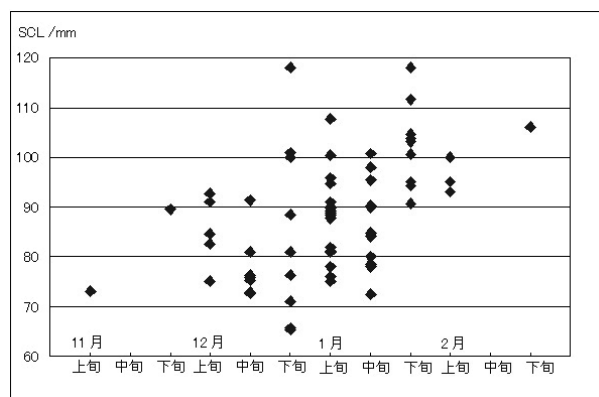


図3 アカウミガメの漂着時季と直甲長

(Received Mar. 22, 2013; accepted Apr. 25, 2013)

<sup>1</sup> 〒486-0844 愛知県春日井市鳥居松町 3-155

<sup>1</sup> 3-155 Toriimatsu-cho, Kasugai City, Aichi 486-0844 Japan